

2015 年 8 月 12 日（水）～13 日（木）

甲斐駒ヶ岳

～Report by 吉松～

2 日目；8 月 13 日（木） 曇りのち雨



3 時、小屋の電燈が一斉に点灯し起床



3 時 20 分過ぎには朝食のテーブルについた。早い食事でしたが、昨日身体を使っている所為か食欲は旺盛だ。



まだ周囲は真っ暗なので、ヘッドランプを装着



小屋の主人に看板前で集合写真を撮ってもらった。

「天気は徐々に崩れていくが、昼までは何とか持つのではないか」とのことであった。

微かな期待が持てた。4時前に山小屋を出発した。



期待は早くも仙水峠辺りで裏切られ、小雨がぱらつき出した。見上げれば黒雲が厚く、回復に向かう気配は無さそうだ。止むを得ず本降りに備えてレインウェアを着用。



小屋を出発してから、1時間半。

仙水峠まではさほどでなかったが、峠から駒津峰に至る山道はかなりの急登で、雨に加えて暑さが追いうちを掛けてくるため、雨合羽を着ての登山はなかなか堪える。



登山道の花々



こんなコンディションでも石井さんだけは意気軒高だ。



水分補給のため、いつもより多めに小休止



駒津峰への最後の急登



6時5分、駒津峰（2740m）到着

生憎、甲斐駒ヶ岳も魔利支天も全く雲の中に隠れてしまっている。午後に向かって風が強くなってくるとの情報もあり、ここで山頂踏破は断念。楽しみは次の機会まで延ばすことにした。



双児山を経て、北沢峠までは2時間程。8時過ぎには峠に着く予定だ。



10分も下ると駒津峰の頂も雲に隠れてしまった。



6時50分、双児山（2643m）到着



(小休止して写真撮影)



下りは仙水峠からの登りのようにごつごつした岩石はほとんど無い。
むしろ単調な下山道が続く。が？。



不用心は禁物だ。

能勢さんが泥に滑って尻もちをついた。
実はこれが2度目だ。



粘土質の泥のため、ザックカバーも雨合羽も泥だらけになってしまった。



色んなことがありましたが、兎に角下山。



8時20分

4人全員バツテン（×）マークで、無事下山記念の写真を一枚。



「こもれば山荘」の軒先を借りて、珈琲&紅茶で一息。

出番のなかった「クマさん会旗」もここで開陳。



9時45分発の南アルプス市営バスと山梨交通バスを乗り継いで、甲府駅に帰着。

駅からタクシーで5分の喜久乃湯温泉に直行。



入口はかなり厳めしいが、一昔前までどこにでもあった風流な銭湯と言った感じ。
勿論、正真正銘の温泉。



かつて、近所に住んでいた太宰治が毎日通っていた由緒ある銭湯でもあるそうなの。

そのような情報が掲載された雑誌が、脱衣場にさりげなく置いてありました。



昔ながらの鍵付き脱衣入れや、脱衣籠（籐籠）があったりして、結構いい気分でした。1人400円也。



甲府駅に戻り、名物「ほうとう」を食べる予定であったが、石井さんお薦めで、こちらも甲府名物「鳥もつ煮」にチャレンジすることにしました。

駅から5分ほどの、蕎麦処「奥藤本店」。なんと先客が3,4人並でいて、中々人気の店らしい。



まずは定番の生ビールで乾杯。

80人は入るといふ店内は満席。暑いのに「ほうとう」を食べているお客さんも結構いました。



我々は、目当ての「鳥もつ煮」をつまみに、生ビールをグビグビ。

「鳥もつ煮」は酒の肴に絶品。酒がいくらでもいっちゃいそう！！

仕上げは「ざるそば」。これも結構なお味でした！



全員の切符を「かいじ116号」（甲府駅 3時27分発）に変更。席を4人でボックスにして、最後の仕上げを持参の焼酎で行いながら、帰路につきました。

甲斐駒ヶ岳山頂に立てなかったのは残念でしたが、「山は逃げない」との熊本さんのアドバイスを受けて、安全第一の登山を楽しむことができました。またチャレンジしたい名峰です。

*以下、写真が語る番外編



ご覧の通り、石井さんは仕上げの焼酎をやっている最中に、一人スヤスヤ寝てしまったのです。3人の会話がはずむ途中から・・・。

初日は仙水小屋でもこうやって、さっさと寝てしまったのです。

健康の元なのでしょうねー。